ご支援のお願い

難病とたたかう子どもと家族のための医療ケア付自然体験施設「そらぷちキッズキャンプ」の活動は、多くの皆様からの資金的支援（会費、寄付、物品）と人的支援（ボランティア）によって、支えられています。
ご支援をよろしくお願いします。

方法1 寄付金をご提供いただく方法

いつでもいくらからでも受け付けております。お振込み口座は以下です。

金融機関名	店番	口座名	種目	口座記号・番号
ゆうちょ銀行	279	公益財団法人そらぷちキッズキャンプ	当座	02770-6-045696

※他銀行からゆうちょ銀行へ振り込む場合は、（）内の２項目が必要となります。（店名：二七九（ニナナキユウ） 口座番号：0045696）
※その他口座については、下記までお問い合わせください。

クレジットカード決済によるご入金もできます。

ＨＰより１口１,０００円からご入金いただけます。決済システムは、日本財団との協働プロジェクト事業として特定非営利活動法人 CANPAN センターが提供している、CANPAN 決済サービスを利用してクレジットカードを使ったオンラインでの入金ができます。

http://kessai.canpan.info/org/solaputi/

方法2 会員として継続的にご支援いただく方法

継続的にご支援をいただける方は、年会費によるご支援をお願いします。
会員登録された方には、活動をお知らせするニュースレター等を郵送いたします。

応援会員（個人・団体）	一般 1口2千円	特別 1口1万円
賛助会員（企業・法人）	一般 1口20万円	特別 1口50万円

※会員期間は、入会日から入会年度の 3/31 まで。お振込みは上記口座。
※上記クレジットカード決済による入金もできます。自動継続も可能です。

方法3 物品をご寄贈いただく方法

キャンプに必要となる物品を「ウィッシュリスト」として整理・随時更新しています。
詳しくは、下記キャンプ場までお問い合わせください。

方法4 ボランティア登録をしてご支援いただく方法

ホームページからボランティア登録をいただくと、下記種類のボランティア活動について適時お声掛けいたします。まずはご登録をお願いします。

○キャンプのためのボランティア（18 歳以上。事前研修必須。）
○そらぷちの森の維持管理のためのボランティア
○キャンプ場の掃除や布団などセットするボランティア
○イベントや学会等での PR ブース運営のボランティア
○子どもにプレゼントする人形の製作ボランティア
○資料発送などの事務ボランティア　等

ほか その他の方法として

店頭募金箱設置や広報 PR 支援（講演依頼他）など、いろいろな方法があります。
詳しくは、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ

公益財団法人 そらぷちキッズキャンプ

solaputi kids' camp
a seriousfun camp
founded by paul newman

〒079-0461
北海道滝川市江部乙町丸加高原 4264-1
TEL:0125-75-3200　FAX:0125-75-3211
HP：http://www.solaputi.jp　e-mail：info@solaputi.jp

Copyright © solaputi kids' camp. All Rights Reserved.

そらぷちキッズキャンプ
solaputi kids' camp

木道を通って森へ向かうキャンパーたち
（サマーキャンプ 2015）

難病とたたかう子どものための医療ケア付キャンプ場

in 北海道滝川市丸加高原

「そらぷちキッズキャンプ」とは

「外で遊びたい」―― それが夢だと言う子どもたちがいます。

日本には、小児がんや心臓病など、難病とたたかう子どもたちが、約20万人いると言われています。そんな子どもたちは、辛く長い闘病生活の中で「外で遊ぶ」という機会がほとんどありません。
「外で遊びたい」── それが夢だと言う子どもたちがいるのです。

そして闘病中の子どもをサポートする家族にも「休息」や「リフレッシュ」が必要となっています。

小児病棟の病室

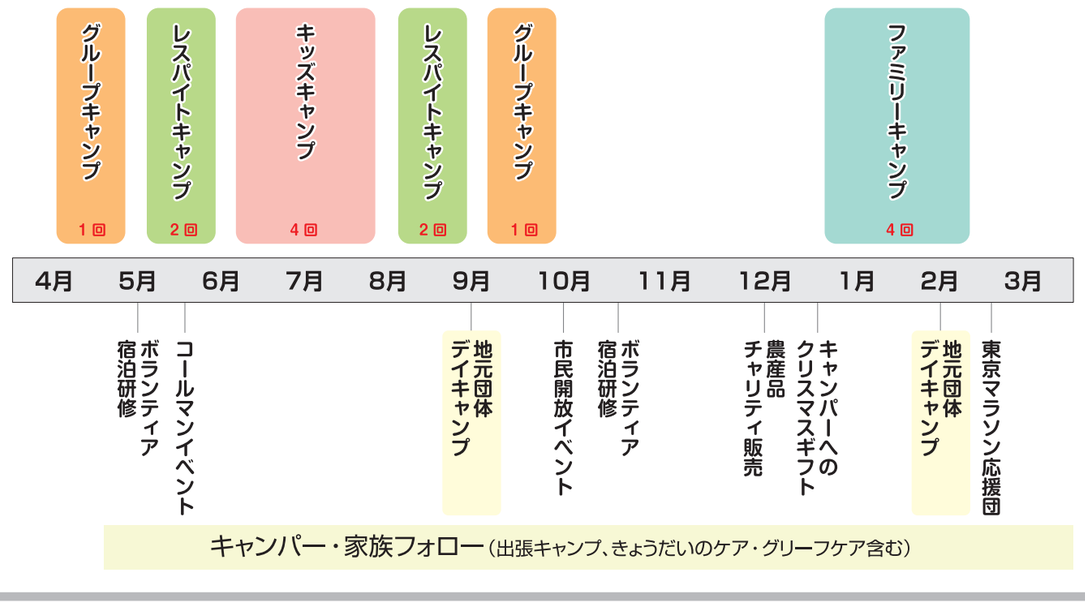
難病とたたかう子どもたちが自分の病気や治療のことを気にせず遊べるよう、特別に配慮された医療ケア付自然体験施設をつくりたい！

北海道滝川市丸加高原

そらぷちキッズキャンプは、難病とたたかう子どもたちや家族を受け入れることができる、医療ケア付キャンプ場を、北海道の大自然の中につくりました。

このような施設は、国内にはなく、すべて寄付やボランティアの力で運営しています。非日常体験であるキャンプに参加することが、闘病中の子どもや家族の「休息」になり、「明日を生きるエネルギー」になることを望んでいます。

キャンプ等実施計画（中期目標）



キャンプの種類について

こんなキャンプをしています！

キッズキャンプ（子どものみ参加）

・対象年齢：10 ～18 歳（小学校高学年から高校生）
・人数：20 名程度・期間：3 泊 4 日
・特徴：親元から離れ、同じ病気の仲間と集団生活し、自信をつける。
（見送る親は、リフレッシュ、きょうだいは、親との時間を持つ機会）
・実施時期：7 月、8 月（夏休みの期間）
・サポートスタッフ、ボランティア 40 名程度

ファミリーキャンプ（家族単位参加）

・人数：8 家族 24 名程度・期間：3 泊 4 日
・特徴：家族での旅行、キャンプの機会。同じ病気の子どもを持つ家族が交流し、孤独感を和らげる。仲間意識をつくる。
・実施時期：1 月、2 月（冬・雪のシーズン）
・サポートスタッフ、ボランティア 20 名程度

レスパイトキャンプ（個別家族参加）

・人数：2 家族 10 名程度（同行医療者含む）・期間：3 泊 4 日程度
・特徴：医療ケア度の高い子どもと家族が対象。日常の緊張感から解放された中で、家族が同じ時間・想い出をつくる。
・実施時期：6 月、9 月（過ごしやすい気温の時期）
・サポートスタッフ、ボランティア 20 名程度

グループキャンプ（団体参加）

・対象団体：難病の子どもの家族会、支援団体・期間：3 泊 4 日程度
・人数：8 家族 24 名程度＋同行者 10 名程度
・特徴：家族会・団体内の交流
・実施時期：5 月、10 月（夏季シーズン前後）
・サポートスタッフ、ボランティア 20 名程度

今後の展開について

これら以外にキャンプ場の特性を活かして、きょうだいや親のサポート、子どもを亡くした家族をサポートする取り組みも行っていきたいと考えています。

対象者について

そらぷちキッズキャンプは、「難病などの病気とたたかう子どもと家族」を対象とし、病種は限定せず、より医療ケア度の高い子ども、よりキャンプへのニーズが高い子どもを優先し、招待します。参加には専門の医療体制（専門の医師、看護師等の参画）の構築が不可欠となります。その体制が整った段階で新たな病種を対象にしたキャンプをスタートさせます。

これまでの参加者（参加者数、居住地、病種、感想など）

小児がん（急性リンパ性白血病、脳腫瘍など）とたたかう子どもや、小児外科系疾患（二分脊椎症、短腸症候群、ヒルシュスプルング病類縁疾患など）を持つ子ども、その他、神経・筋疾患を持つ子ども等が、キャンプに参加しています。これまで2005～2015 年の 11 年間で、全国から 645 名の難病とたたかう子どもと家族を無料で招待することができました。

参加者の感想

キャンパーの笑顔。
現在はボランティアで活躍中。

子どもの感想

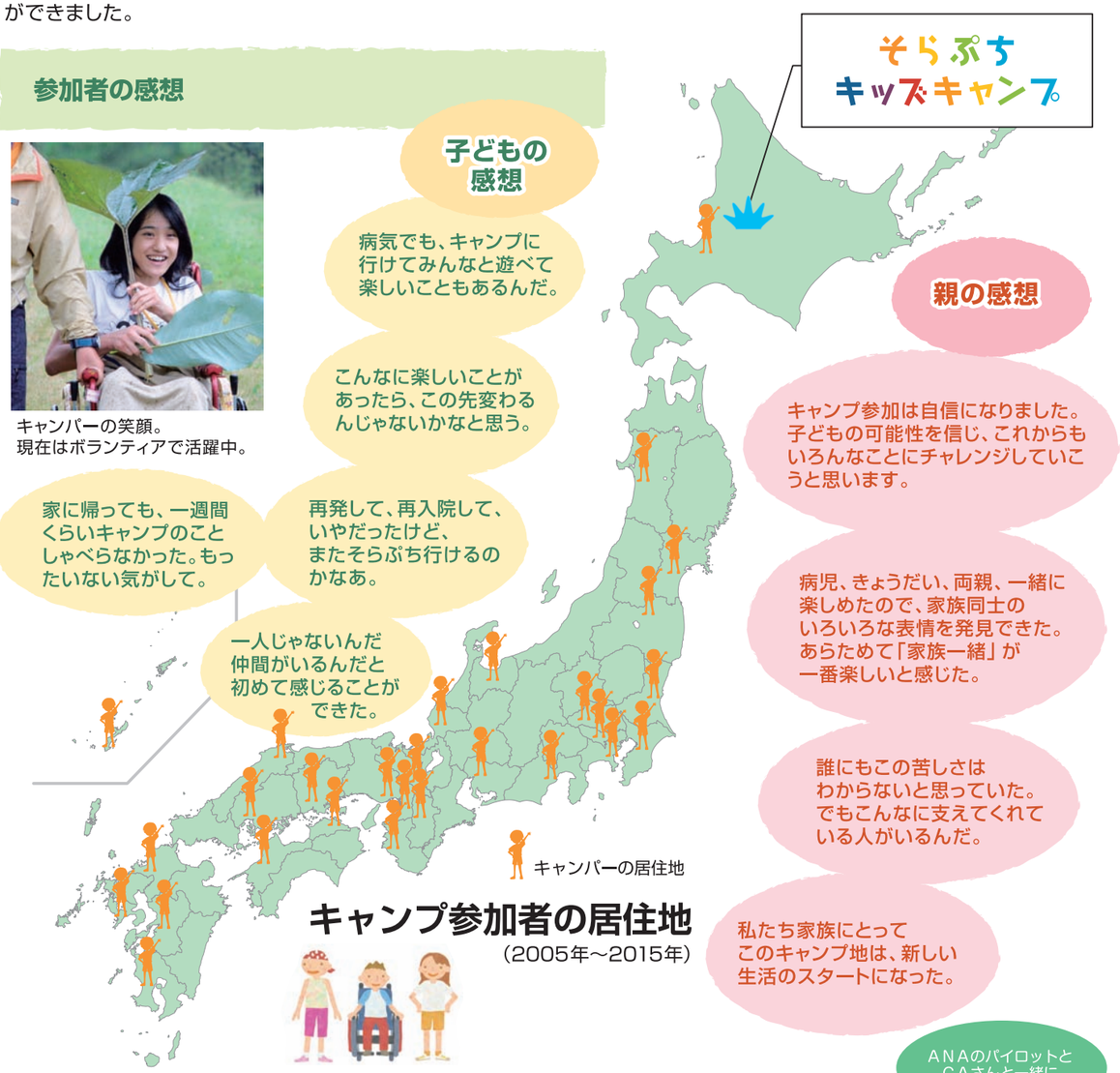
病気でも、キャンプに行けてみんなと遊べて楽しいこともあるんだ。

こんなに楽しいことがあったら、この先変わるんじゃないかなと思う。

家に帰っても、一週間くらいキャンプのことしゃべらなかった。もったいない気がして。

再発して、再入院して、いやだったけど、またそらぷち行けるのかなあ。

一人じゃないんだ仲間がいるんだと初めて感じることができた。



親の感想

キャンプ参加は自信になりました。子どもの可能性を信じ、これからもいろんなことにチャレンジしていこうと思います。

病児、きょうだい、両親、一緒に楽しめたので、家族同士のいろいろな表情を発見できた。あらためて「家族一緒」が一番楽しいと感じた。

誰にもこの苦しさはわからないと思っていた。でもこんなに支えてくれている人がいるんだ。

私たち家族にとってこのキャンプ地は、新しい生活のスタートになった。

キャンプ参加者の居住地
（2005年～2015年）

全国からそらぷちキッズキャンプへの移動について

そらぷちキッズキャンプは北海道にあるため、ほとんどの参加者が、飛行機に搭乗し移動することになります。この飛行機による移動は、ANA グループがサポートをしてくださっていて、事前の綿密な情報交換により、参加者の状態にあわせた、空港での誘導、休憩場所の確保、飛行機の乗り降りなど、快適に飛行機や空港を利用することができるよう、様々なサポートをいただいています。

ANAのパイロットとCAさんと一緒に特別に記念撮影

■ 事前説明会・家庭訪問

キャンプの募集を開始してから参加に至る間の情報交換を大切にしています。子どもだけが参加するキッズキャンプでは必ず事前説明会を開催、家族単位で参加するキャンプでも、状況によって個別の家庭訪問を実施しています。情報交換はキャンプ場に常駐する看護師が行います。

■ キャンププログラム

子どもたちや家族の状態・ニーズにあわせて、様々なアクティビティを準備しています。北海道の大自然を活かした、自然とふれあう、仲間と楽しむ、自分にチャレンジする、様々なプログラムを提供します。専門資格をもつスタッフが準備・実施する乗馬・馬車搭乗、森あそび（ツリーハウス）などのプログラムがあります。

■ ボランティア

キャンプには、事前に研修を受けたボランティアが参加しています。大学生や主婦、キャンプの専門家、栄養士、医師や看護師など様々な人たちが、子どもたちの「力になりたい」と集まっています。ボランティアとの交流もキャンプの魅力の1つです。キャンパーからボランティアになった若者もいます。

■ 食事

北海道の旬の食材を使った、子どもたちが選べる食事、子どもたちと一緒につくる食事など、「食事」はキャンプの楽しみのひとつになっています。専門のスタッフが常駐し、食物アレルギーや食事制限、ニーズに合う食事形態（きざみ、ペースト）などにも対応した食事メニューを提供することができます。

■ 医療支援

キャンプ中は、専門の医師、看護師が常駐し、キャンプでも日常の医療ケアが継続できるようにサポートします。「ほけんしつ」と呼んでいる専用の建物もあり、集団から離れての休息や、特別な処置が必要になった場合にも使います。また滝川市立病院と連携し、緊急時対応ができる体制を整えています。

■ 施設・設備

キャンプ場内の施設・設備は、訪れる子どもたちのことを考え、バリアフリー・ユニバーサルデザインの視点で、設計・整備されています。今後も、子どもたちの意見を聞いて改善し、使いやすい施設にしていきたいと考えています。森の中には、車いすのままで行けるツリーハウス（木の上の家）もあります。

キャンプサイト・施設の紹介

そらぷちキッズキャンプは、大空と豊かな自然に囲まれた北海道滝川市丸加高原にあります。丸加高原は標高２８６メートルの丸加山のすそ野に広がる丘陵地で、キャンプ場は約16ヘクタールの草地と森です。宿泊棟、食堂・浴室棟等の施設群があり、敷地の2/3を占める森には、ツリーハウスや散策路など自然を満喫できるよう整備されています。

summer

そらぷちの丘

広　場

きつつきの森

winter

ほたるの森

広場周辺

そらぷちの森（森全体及び基盤整備）・
事務棟（森の案内所）については、高原基金の森
（高原慶一朗氏）の協力をいただきました。

施設の建設にあたり、法人・個人・団体からご支援をいただきました。

2009 年に「事務棟（森の案内所）」が建設され、2010 年には「森のほけんしつ（医療棟）」、2012 年には「食堂＆浴室棟」と「宿泊棟」など主要施設群が完成しました。森エリアには市民ボランティアや民間企業などの協力によりツリーハウスや木道などが整備され、今後もバリアフリー木道や遊びの仕掛けなどをつくる予定です。

②食堂&浴室棟（森のレストラン） 650㎡

食堂ホール、厨房、大浴場

【食　堂】100 人が集える食堂ホールです。食事時間以外は、室内遊び場としても利用します。
【大浴場】森と空をテーマにした2つの浴場があります。キャンプの仲間と一緒に入ることができます。

協力：民間寄付金等

③森のほけんしつ 180㎡

診察・処置スペース　静養室（ベッドルーム）

医療者が常駐し、キャンプ中は医療ケアや服薬の際に使います。体調が悪くなったら、診察・静養することもできます。

協力：故横山清七初代会長親族、北門信用金庫、
日本チェーンドラッグストア協会、滝川市医師会 ほか

①宿泊棟（森のコテージ） 寝室（２段ベッド）、リビング、浴室 240㎡ ×２棟

36人が泊まれるコテージです。寝室には木の2段ベッドがあり、1段目は車いすユーザーが使いやすい高さに設定されています。中央にある和室（畳の小上がり）で寝転んだり、リビングでゲームをしながら遊ぶことができます。

協力：公益財団法人日本財団（宿泊棟1）、一般財団法人日本メイスン財団（宿泊棟2）

④ツリーハウス

木の上にある家

10人程度収容可能

クリエイターの小林崇さんと協働で製作した、4本の大きな木に支えられたツリーハウスです。車いすのままで利用でき、森とひとつになった感覚になります。

協力：一般財団法人東京マラソン財団、公益財団法人太陽財団 ほか

2015 年度　事業概要（報告）

2015 年度は、計９回のキャンプ（夏季６回、冬季３回）を実施し、難病とたたかう子どもと家族に対し、かけがえのない時間を提供することができました。

1. キャンプ事業

「難病の子どもと家族が参加するキャンプの実施」
参加者 212 名

6/19～22　レスパイトキャンプ　3泊4日

重い病気や障がいをもつ子どもと家族・主治医　３家族 11 名
（居住地域：福島 1、千葉 1、東京 1 家族）

7/24～27　キッズキャンプ　3泊4日

小児外科系疾患をもつ子ども　13 名
（居住地域：北海道 4、秋田 1、宮城 2、大阪 2、京都 1、兵庫3名）

8/7～10　キッズキャンプ　3泊4日

小児がんとたたかう子ども　11 名
（居住地域：宮城 2、福島 2、大阪 2、京都 2、奈良 2、兵庫1名）

9/4～7　ファミリーキャンプ　3泊4日

小児脳腫瘍とたたかう子どもと家族　６家族 21 名
（居住地域：神奈川 1、埼玉 2、福井 1、大阪 1、岡山 1 家族）

9/22　グループキャンプ　日帰り

滝川市こども発達支援センターを利用している子どもと家族
15 家族 55 名（居住地域：滝川市内及び近隣市町村）

10/3～4　グループキャンプ　1泊2日

難病のこども支援全国ネットワーク会員・家族　５家族 15 名

1/29～2/1　ファミリーキャンプ　3泊4日

小児がんとたたかう子どもと家族　６家族 22 名
（居住地域：福島 1、千葉 2、東京 1、愛知２家族）

2/11　グループキャンプ　日帰り

滝川市こども発達支援センターを利用している子どもと家族
16 家族 50 名（居住地域：滝川市内及び近隣市町村）

2/12～15　ファミリーキャンプ　3泊4日

小児外科系疾患を持つ子どもと家族　４家族 14 名
（居住地域：北海道 2、東京 1、神奈川 1 家族）

「ボランティア募集・育成・活動調整」

・ボランティア研修キャンプの実施

5/2～4　２泊３日
研修参加者 34 名

10/10～12　２泊３日
研修参加者 32 名

ボランティア研修キャンプ

2. 広報（普及啓発）事業

・アニュアルレポート等の制作・配布
・キャンプ場でのイベント開催
（10/4 そらぷちフェスティバル・ウォーキングイベント）
・全国各地での講演
・各種イベントでのＰＲ
（5/23～24 コールマンイベント、2/25～28 東京マラソン、2016、3/18～20 日本チェーンドラッグストアショー 他）
・施設見学の受け入れ・ホームページの運営　他

コールマンイベントブース

そらぷちフェスティバル

3. 専用施設の建設・施設維持管理

主要施設群（食堂＆浴室棟、宿泊棟２棟、医療棟（ほけんしつ）、事務棟）を運営・維持管理するとともに、車いすで行けるツリーハウスや森、草地の維持管理を行いました。また施設利用者が安全に快適に過ごせるよう、適時必要備品の設置や軽微な改修を行っています。

施設全景

4. その他（調査研究他）

全国で開催される関連学会等に参加し、事例発表、情報交換を行いました。
・10/17　日本ホスピタル・ホスピタリティ・ハウスネットワーク会議
・11/28,29　日本小児血液・がん学会（日本小児がん看護学会）

以下のボランティア活動ごとに、年間を通じて募集育成・活動調整を行いました。

・キャンプボランティア
・施設維持管理ボランティア（屋外）
・広報ＰＲボランティア
・イベントボランティア
・人形製作ボランティア

人形製作ボランティア

そらぷちキッズキャンプ・フォトギャラリー2015

撮影：小西貴士（ゴリ）
高橋吉之（よっち）
キャンプ場スタッフ

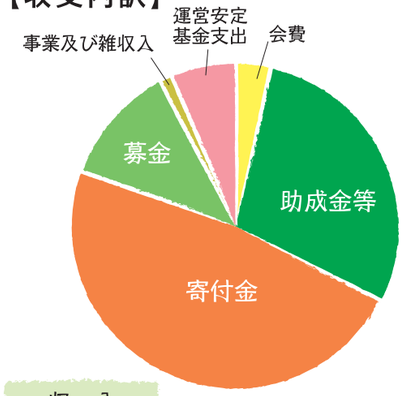
2015年度　決算報告および寄付者 / 会員状況

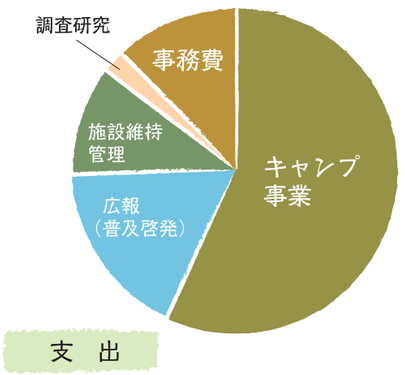
会計報告

【収　入】	
収入合計	**149,020,895 円**
会費 そらぷち会員数　265 人	5,242,000 円
助成金等	43,117,776 円
寄付金 一般寄付者数　3,053 人	71,560,798 円
募金	17,859,575 円
事業及び雑収入	1,761,115 円
運営安定基金支出	9,479,631 円

【支　出】	
支出合計	**149,020,895 円**
キャンプ事業	84,855,639 円
広報（普及啓発）	26,328,627 円
施設維持管理	16,230,696 円
調査研究	3,306,419 円
事務費	18,299,514 円

【収支内訳】





寄付支援いただいた企業・団体

- 日本チェーンドラッグストア協会
- 一般財団法人　東京マラソン財団
- The Boeing Company
- 大原小児がん基金
- 公益財団法人　日本財団
- 株式会社　サッポロドラッグストアー※
- 一般財団法人　日本メイスン財団
- SeriousFun Children's Network（シリアスファン）
- 株式会社　日本財託
- 株式会社　クスリのマルエ※
- 北門信用金庫
- コールマンジャパン　株式会社★
- 住商グローバル・ロジスティクス　株式会社★
- しんきん住公会

※印は
ユニ・チャーム株式会社
とのオムツチャリティ
キャンペーンも実施

1000万～　(円)
500万～1000万未満
300万～500万未満
100万～300万未満

★賛助会員

北海道コカ・コーラボトリング　株式会社
TRY-F
株式会社　マツオ
滝川ロータリークラブ
株式会社　シンモク★
株式会社 ダッドウェイ
医療法人社団 青鴬会　鴬谷健診センター★
株式会社　桑山★
株式会社　北星
北海道新聞社会福祉振興基金
株式会社　神戸屋（株式会社 キリン堂とのパンキャンペーン）
滝川中央ライオンズクラブ
羽陽学園短期大学
空知単板工業 株式会社 第14回チャリティー100kmウォーク大会実行委員会
サントリービバレッジサービス　株式会社
江部乙商工会（そらぷち野菜ボックス）
MDRT 三井住友海上あいおい会
宗教法人　一心寺★
DCM ホーマック　株式会社★
株式会社　フジテレビジョン★
株式会社　フジファシリティー★
香蘭女学校キリスト教センター
小野薬品工業　株式会社★
西武造園　株式会社★
特定非営利活動法人　北海道ファミリーハウス★
公益財団法人　毎日新聞東京社会事業団
株式会社 東京ヴァンテン
小樽友の会
大原薬品工業　株式会社 従業員一同
株式会社　トド・プレス
株式会社　CtoC グループ
東京エレクトロン　株式会社
ヒーリング＆ビューティ肌美粧
しののめ信用金庫
株式会社　メディプロデュース
医療法人　圭仁会 佐藤病院
豊長自動車販売　株式会社
パワーオブライフ実行委員会
ユニバーサル・ビジネス・ソリューションズ　株式会社
株式会社　グレシステム
株式会社　コモン・リンク

（敬称略）

ご支援ありがとうございました！

このほか、多くの企業・団体にご支援をいただきました。

公益財団法人そらぷちキッズキャンプ　ご挨拶・役員名簿

当財団は、自然体験を通じて、難病とたたかう子どもたちとその家族の「QOL（生活の質）の向上」や「心のケア」に寄与することを目的としています。具体的には、自然の中で安全に楽しく過ごしてもらうため、特別に配慮されたキャンプ施設や自然体験プログラムを提供します。また地元滝川市立病院の協力のもと、医師や看護師による医療的なバックアップを行います。そして、キャンプに参加した難病の子どもやその家族が「たのしい思い出」「すばらしい仲間」「生きる力」「希望」を得ることを目指しています。

これから更に活動の充実を図ってまいりますので、当財団に対し一層のご理解･ご助力を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人そらぷちキッズキャンプ　代表理事　細谷亮太

代表理事　細谷 亮太　プロフィール

１９４８年、山形県生まれ。東北大学医学部卒業後、聖路加国際病院小児科に勤務。小児がんの先端的治療技術の研修のため、米国テキサス大学総合がん研究所M･D･アンダーソン病院に１９７７年より３年間赴任。
聖路加国際病院小児科に復職し、小児科部長、副病院長を歴任。現在は聖路加国際病院・顧問。
（著書）「川の見える病院から ～医者としてできること、できなかったこと～ 」
「小児科病棟の四季」、「医者が泣くということ」、「生きるために、一句」
「命のノート　僕たち、わたしたちの「命」についての12のお話」、「ぼくのいのち」 他

公益財団法人そらぷちキッズキャンプ　役員名簿　（2016年６月14日現在）

評議員　９名		
評議員	小林　信秋	（認定NPO法人 難病のこども支援全国ネットワーク会長）
評議員	鈴木　忠男	（PwCジャパン合同会社顧問・公認会計士）
評議員	鈴木　洋之	（滝川市医師会顧問・医師）
評議員	田村　弘	（國學院大學北海道短期大学部学長）
評議員	藤井　謙和	（滝川商工会議所会頭）
評議員	前田　康吉	（滝川市長）
評議員	正木　烝司	（株式会社泰正代表取締役）
評議員	松本　南海雄	（日本チェーンドラッグストア協会名誉会長）
評議員	丸山　健	（丸山健法律事務所 ・ 弁護士）

理事　１２名		
執行理事	細谷　亮太	（聖路加国際病院顧問・小児科医）
理事	松本　守	（株式会社フジテレビジョン役員待遇特区事業担当･元 国土交通省官房審議官）
理事	浅野　房世	（東京農業大学農学部園芸（植物介在）療法学研究室教授）
理事	男澤　伸一	（滝川市医師会会長・医師）
理事	木村　節子	（東海大学医療技術短期大学小児看護学講師）
理事	小林　勝子	（北海道看護連盟北空知支部長・元 滝川市立病院看護部長）
理事	笹川　祐子	（株式会社イマジンプラス代表取締役社長）
理事	佐々木　衿子	（滝川市立病院看護部長）
理事	堤　明人	（滝川市立病院院長・医師）
理事	中　文雄	（元 北海道広域市町村圏連絡協議会事務局長）
理事	宮本　和俊	（旭川医科大学医学部小児外科科長・小児外科医）
理事	山内　康裕	（滝川市総務部国際課課長）

監事　２名		
監事	池田　治男	（元 北門信用金庫専務理事）
監事	宮崎　英彰	（A・I税理士法人・税理士）